

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研究テーマ	キャリア形成支援を目的とした日本語運用力向上のための教育実践				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	竹部 歩美
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	坂巻 静佳
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	竹部 歩美

講演題目	
大学生の日本語運用力向上のための教育実践	
研究の目的、成果及び今後の展望	
1. 研究の目的 本研究組織の研究目的は、本学学生が就職活動を経て実社会において活躍するにあたって必要となる日本語運用能力を向上させることにある。 日本語運用能力は、キャリア形成支援において最も基本的なものであり、根幹をなすものでもある。しかし、日本語話者の書き言葉・話し言葉の運用能力の低下は著しく、本学学生においてもこれは例外ではない。本学学生を含む日本語話者は、日本社会の構成員として正確な言葉遣いが強く求められているにもかかわらず、丁寧な教育を継続的に施さなければその能力を身につけることは難しい。日本語運用技術力は日ごろの鍛錬において体得されるものであるが、本学学生にあっては、日常生活においても、本学の現行カリキュラムにおいても、これを体得する機会に恵まれてはいない。 本研究組織は、本学学生の、改まった場面における話し言葉としての言葉遣い、ならびに、電子メールなどの改まった場面における書き言葉としての言葉遣いの運用技術力を高めることを目指し、その教育に効果的な教材を作成し、それを用いて実践的に指導・教育を施す。 2. 研究の成果 本研究組織では、①電子メールの作成に必要なルールとマナーの指導、②敬語に関する基礎知識の指導、この2つの学習・習得に必要な教材を作成した。そして、これを用いて実践的指導を行い、教材の有効性と適切な指導方法を検証した。 本研究組織は、短期集中指導で一定の効果の得られる教材と教授法を検討し、作成したものを用いて、下記の(1)・(2)を実施した。 (1)「メールの書き方ワークショップ」の開催 ①第1回講座（令和7年6月30日実施）のテーマ：「〈欠席すること〉を社会的地位の上位者に伝達する」ためにどのように日本語を運用すべきか、留意すべき点は何か。 ②第2回講座（令和7年12月12日実施）のテーマ：「提出期日の迫っている書類の作成を社会的地位の上位者に依頼する」ためにどのように日本語を運用すべきか、留意すべき点は何か。 このワークショップは、事前に課した課題について参加学生が書いた文章を添削しつつ、必要となる言語技術について解説するとともに、日本語作文の方法についても解説するという方式を用いて実施した。 (2)「敬語実践講座」の開催（令和7年12月12日実施） この講座では、敬語の体系と敬語とは何かについて概説したのち、事前に配布した敬語教材に基づいて解説を施しながら、言葉遣いとは何か、規範的な敬語とは何か、どのように敬語を運用すべきかを教授した。 (1)は国際関係学部生を対象とし、個別添削指導に近い形式を採った。(2)は全学学生を対象とし、日本語運用の基礎事項に関して集団指導をする形式を採った。いずれについても、参加者からは「非常に役に立つ」「役に立つ」との評価を得た。 3. 今後の展望 近時、(2)「敬語実践講座」への参加希望者が増加しており、国際関係学部以外の学部・研究科・学府からの参加者が増加傾向にある。その要望に応えるべく、本研究組織は、指導方針と指導方法を再検討し、実践的指導を施せるよう努めてゆく。また、日本語運用力向上には、継続的な鍛錬が必要であるため、教育・指導の場を設け、これに必要となる教材及び教授法のさらなる向上を目指してゆく。	